

■秋じゃがいもの栽培

～ 8月下旬から9月上旬に種イモを植えれば、11月下旬に
秋の新じゃがを食べることができます！ ～

【栽培のポイント】

○秋作に合う品種を選ぶ（休眠期間の短い品種を使う）

秋作では、休眠期間が短く出芽が早い品種「デジマ」「ニシユタカ」「アンデス赤」「キタアカリ」などが適しています。

○種イモを切る場合は、切り口を十分にコルク化させる。

秋じゃがいもは、小イモをそのまま植えた方がよいといわれますが、種イモが大きい場合には1片約50g程度に切って植えます。その際、切り口を十分にコルク化する（かさぶた状にする）ことが大切です。

夏は気温が高いため常温だと腐る場合もありますので、切ってすぐビニール袋に入れて冷蔵庫野菜室に1週間程度置くと、腐らずコルク化できて失敗が少ないようです。

○芽が動きはじめた種イモを適期に定植する（8月下旬～9月上旬）。

早く植付けると暑さで腐りやすく、遅く植えると生育期間が確保できないため、8月下旬～9月上旬が植付け適期といわれています。芽の動きはじめた種イモを植え、定植後は土の上にワラをひくなどして、地温の上昇を防ぐと良いでしょう。

○芽かきはしない

秋じゃがの品種は芽の数が少ないものも多く、また1つ1つのイモが大きくなりやすい傾向があるため、基本的には芽かきをしません。（1つの種イモから5本以上芽がでている場合には、3本程度に間引きします）

○石灰分は少なめに

じゃがいもはpH（土壌酸性度）が高いと「そうか病」になり易いため、前作で石灰を入れている畑では石灰肥料（苦土石灰など）は入れないようにしましょう。 ※春作の場合も同じです。



○病害対策をする（排水対策・予防散布）

秋の長雨で病気が発生しやすいので、水の溜まりやすいほ場では排水対策をしたり、疫病に予防効果のある農薬で予防散布すると良いでしょう。